



研究だより

授業日：2017（平成29）年
4月21日（金）
発行者：1年 教科研究担当 亀本

授業日 2017（平成29）年 4月21日（金） 4校時 第2学年 3組
 単元名 「たしざん～たしざんの仕方をかんがえよう～」
 本時の目標 「繰り上がりのない(2位数)+(2位数)の計算の仕方を考え、説明することができる。」

授業後の研修より

授業の視点	成 果	課 題	改 善 点
① 児童の実態に応じた学習展開の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底ができていた。(話している人の方を向く、反応する等) ・子どもたちの意欲的な姿が見られた。主体的に取り組んでいた。 ・既習事項の確認ができる掲示物がわかりやすかった。 ・子どもたちが作った問題を本時の問題にしていて、興味を喚起させていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのところで少し時間がかかった。 ・めあての出し方(教師がひっぱっていく) ・ペアで相談させるときは、内容を絞り、焦点化させる。 ・ワークシートの型 ・板書構成 	<ul style="list-style-type: none"> →見通しと気づきを区別して、何を答えさせるのか、見るための視点を与えていく。 →単元名「たしざん」と書くと流れがスムーズになる。 →学年の実態に合わせて作成していく。(書く欄や文字の大きさ等) ノートとプリントで難しいのならプリント1枚で授業してもよかった。 →1時間の流れが分かるように工夫する。①めあてとまとめは同じ高さにする。②児童の出したホワイトボードの数を精選してすっきりさせる。 掲示物の色分けをして視覚的に理解させる。(十の位、一の位の区別やまず、つぎに、さいごに等の言葉)
② 学び合いを深める学習形態の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で活発な話し合いができていた。 ・子どもたちから、相談タイムの要求→わからない子に教える姿勢がみられた。 ・活発に意見が飛びあっていた。 ・伝え合う言葉を多用して発言することができていた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分たちの考えを発表する場があったらよかった。(例えば、図をかいたグループがブロックをかいたグループの考えを発表するなど。) ・子どもたちから意見がでなかったとき、もう少し待つ。→見る視点を与える。

◆児童自らが学ぶ授業にむけて取り組んでいたか。

(100%)

《まとめ》

- ・見通しと気づきの区別をする。(気づき…問題からの気づき、見通し…問題解決の見通し→答えの見通し、方法の見通し)
- ・教科書の使い方 どのタイミングで開かせるか、また開かせないか 問題に合わせていく。
- ・ワクワク感のある課題発見の提示を工夫していく。
- ・発表の型は低・中・高の実態に合わせていく。
- ・教師の問いかけ 見る視点を与えたり、待ったりすることを大切にして進めていく。
- ・時間配分・・・35+10の授業を意識して進めていく。
- ・掲示物の統一をしていく。